

市民公開
シンポジウム

タネと食と農の未来。

種子制度の役割とこれを巡る議論

塩谷和正（しおや・かずまさ）
農林水産省食料産業局知的財産課政策情報分析官

北海道でゲノム編集作物は栽培されるか

石井哲也（いしい・てつや）
北海道大学安全衛生本部教授

北海道における 主要農作物等の種子の生産と供給

宮田大（みやた・だい）
北海道農政部生産振興局局長

種子は誰のもの？ 安全安心なタネとは？

久田徳二（ひさだ・とくじ）北海道たねの会代表
北海道大学客員教授、元北海道新聞編集委員

作物遺伝資源の多様性とその保全

土門英司（どもん・えいじ）
農業・食品産業技術総合研究機構
遺伝資源センター調整室 上級研究員

【パネル討論コーディネーター】

■林美香子（はやし・みかこ）

慶應義塾大学大学院特任教授
北海道大学客員教授

■貴島祐治（きしま・ゆうじ）

北海道大学大学院農学研究院教授

【参加無料／事前申し込み制・定員 250 名】

メールに「タネの未来シンポ参加希望」と書いて、
①名前、②職業、③メールアドレス、④携帯電話番号を送って下さい。定員になり次第締め切ります。

tanenomirai@bpe.agr.hokudai.ac.jp

2019.03.08.Fri. 13:00-17:00

北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟 2 階 8 番教室

定員 250 名
申し込みは
こちらから→



今、タネと食と農が大きな岐路にさしかかっています。

主要農産物種子法が廃止されたのを受け、道などが条例を制定する動きがあります。種苗法改定の流れにより、育成者権と自家採種権の問題が浮上しています。遺伝子組み換えやゲノム編集の研究を進める動きと、慎重な対応を求める動きが、ぶつかりあっています。作物の多様性と遺伝資源の維持拡大をどう確保するかが課題になっています。このシンポジウムでは、こうした論点をめぐって立場や主張の異なる5人の論客が講演し、パネル討論を行います。

【主催】寒地大規模畑作研究ネットワーク（拠点機関：北海道大学大学院農学研究院）

【問合せ】北海道大学大学院農学研究院ビークルロボティクス研究室・青木 aoki@bpe.agr.hokudai.ac.jp (011-706-3883)
本シンポジウムは、農研機構生研支援センターの委託事業である「技術開発・成果普及等推進事業」で実施しています。